

倫理講義 1 ユダヤ教・キリスト教

どのように出題されるのか！ はじめにセンター過去問にトライ！

2016 本試 イエスの教え

イエスの教えについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 愛を実践する生き方の基本として、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」と説いた。
- ② ユダヤ教の經典に書かれた律法を重視し、たとえ形式的であっても律法を厳格に遵守しなければならないと説いた。
- ③ 旧約聖書の根幹をなす「敵を愛し、迫害するもののために祈りなさい」という教えを受け継ぎ、敵をも赦す普遍的な愛を説いた。
- ④ 神が与えてくれた悔い改めの機会として、安息日を忠実に守り、すべての労働を避けなければならないと説いた。

イエスの教えとは何か②敵をも許す普遍的な愛とは何か③安息日についてのイエスの思想以上を知らなくては正解は導けない。

①は、隣人愛である。

POINT 得点源 1

ユダヤ教・キリスト教・イスラームの共通点と相違点を理解せよ！

宗教	ユダヤ教	キリスト教	イスラーム教
神	ヤハウェ	ヤハウェ	アッラー 開祖 ムハンマド
中心聖典	『旧約聖書』	『新約聖書』	『クルアーン(コーラン)』
特徴	民族宗教 選民思想 偶像崇拜禁止	世界宗教 アガペー 隣人愛	世界宗教 六信五行 偶像崇拜禁止

POINT 得点源 2

『旧約聖書とユダヤ教』

I ユダヤ教…ユダヤ人の1 民族 宗教 (キリスト教の母体)

旧約聖書…ユダヤ教の聖典。『旧約聖書』の「創世記」は、前 1000 年頃に成立した最古の資料。

II ユダヤ民族の歴史

(最古…メソポタミアで遊牧生活)

前 2000 頃 始祖アブラハムに率いられ

「2 カナン の地」に移住

現在のパレスチナ、地中海東岸部、自然環境は過酷

前 1700 頃 エジプトへ集団移住

→迫害、奴隷状態に置かれる+

ファラオ
王の圧政

【信仰】唯一神 3 ヤハウェ 信仰
 ・4 唯一 絶対、全知全能
 ・5 天地創造 を行った
 ・この世の終末には、すべての魂に対し最後の 6 審判 を下す裁きの神
 ↓
 「神はヤハウェ以外に存在しない」
 (他民族の信じている神々は偽り)

前 1290 頃 7 モーセ に率いられ 60 万のユダヤ人がエジプト脱出 (=8 出エジプト)
 脱出の途上、9 シナイ 山でヤハウェから
 10 十戒 をさずかる
 「カナンの地に帰還」

前 1004 11 ヘブライ 王国建国

★12 ダヴィデ 王・13 ソロモン 王の治世 (全盛期)

▶エルサレムを都とする ▶ヤハウェ神殿を創建

●律法を守り得ない人々の存在

8 売春婦 9 罪人 ・身体障害者・高利貸・10 徴税人 (ローマ帝国に命ぜられ、ユダヤ人から徴税を行っていた)
 「穢れた者」「終末にも救われぬ者」として軽蔑、差別される

前 922 南ユダ王国←分裂→北イスラエル王国

※新バビロニア王国に滅ぼされる ※アッシリアに滅ぼされる

民衆がバビロンに強制連行され奴隷労働を科せられる (=14 バビロンの捕囚)
 前 586~538

↓

★預言者 15 イザヤ、16 エレミヤ の活躍

王国の滅亡は、信仰の不徹底であるとしヤハウェに対する敬虔な信仰を呼びかけ、神による救済を伝えて、ユダヤ人を励ます

前 538 新バビロニア滅亡

→ユダヤ人はパレスチナに帰還、神殿を再興

前 4 世紀初 17 ユダヤ教 の成立

・聖典『旧約聖書』公布

前 332 アレクサンドロス大王の侵入

前 323 プトレマイオス朝エジプトの支配

前 198 セレウコス朝シリアの支配

後 6 ローマ帝国の直接支配下 に入る

→迫害と搾取

↓

救世主(メシア)を待望

→イエスの出現



保護と救済
 この世の終末には 18 救世主 (19 メシア)
 を遣わし、ユダヤ人だけの王国を地上に築き、
 永遠の繁栄に導く

20 契約

21 律法 (22 十戒) の遵守 十戒をは
 じめ神の下した多くの戒律を厳しく守る
 聖典 23 『旧約聖書』
 ・律法+創世記+出エジプト記などの神話・
 記録
 ・預言者の言葉「イザヤ書」など

イエスの福音

民衆→救世主出現の期待→「まもなく 1 救世主 (=2 メシア ※ヘブライ語) があらわれて、ローマ人を破り、ユダヤ人だけの王国 (=3 神の国) を地上に実現させ、永遠の繁栄を導いてくれる！」

↑
洗礼者 4 ヨハネ の活動 (前 20 頃) “終末” が迫っていると説き、神に心を向けるよう人々に訴える。→5 回心 (神に心を向ける) の証として、洗礼を施す。

6 パリサイ 派などの律法学者…「(終末に近い今こそ) 律法を厳格に守る (=7 律法 主義) こそ、神の祝福を受け、ユダヤ民族の栄光を近づける道」と主張！



イエス (前 47~後 30?) …ユダヤ教の形式主義を批判、神の愛と隣人愛を説く！

ユダヤ教 ↓ イエス ↓
「殺してはならない」→「11 殺したい」と思うことが、すでに罪である
(律法を表面的に守るのでなく、神が本当に言わんとしていることを受けとめ、それを守れ)
「姦淫してはならない」→「12 姦淫したいと思うこと」が、すでに罪である
「ユダヤ人は神に選ばれた特別な民族である」
選民思想 →「すべての人々は、神の前に 13 平等」である
(自らの罪を自覚して神の真の教えを中心に生きたいと願い、自分の生き方を変えていくこと)
「律法を厳格に守るユダヤ人こそが神の心にかなう者である」
→「たとえ罪を犯しても神の前で 14 悔い改めた人間は、どんな非の打ちどころのないユダヤ人よりも、神の心にかなう者である」
『15 山上の垂訓』…オリーブ山におけるイエスの最初の説教

「16 心の貧しい人々 は、幸いである。天の国はその人たちのものである」
悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる。
(心の貧しい人々…厳しい律法主義のもとで苦しみ虐げられ、神に救いを求める以外にないと自覚している人々)

POINT 得点源 イエスの重要な二つの律法

「神は罪を犯した人間を厳しく裁く」⇔「神は罪を犯した人間を 17 赦す」
神=18 裁き の神 ↓

19 神の愛 (20 アガペー ※ギリシア語)

21 無差別・無償 の愛であるから

神=「22 愛 の神」

「あなた方も、その神にならい、人を愛しなさい」

「23 自分自身 を愛するように、汝の 24 隣人 を愛せ」

↓

(25 隣人愛)

ユダヤ教の律法学者が聞いた。「隣人とは何か」。
イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリーブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリオン銀貨二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。

POINT 得点源 黄金律

「何ごとでも、人々からしてほしいと望まれることは、その通りにせよ」

これが (=26 黄金律) ※キリスト教倫理の中核となる教え

「汝の 27 敵 を愛し、迫害する者のために 28 折れ」

「目には目を、歯には歯を」とよく言われる。しかし私はあなた方に言う。
もし、誰かがあなたの右の頬を打つなら 29 左の頬を向けよ。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なる汝の神を愛せ」=29 神への愛
ユダヤ教

「神の国」=ユダヤ人だけが永遠に幸福に暮らす楽園

イエス

「神の国」=ユダヤ人に限らず、すべての人々が 30 神々への愛 (人から人への愛) と 31 隣人愛 (人と人との愛) に生きることにより実現される、愛に満たされた国

センター過去問演習

2017 イエスの教え

イエスの教えについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 愛を実践する生き方の基本として、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」と説いた。
- ② ユダヤ教の經典に書かれた律法を重視し、たとえ形式的であっても律法を厳格に遵守しなければならないと説いた。
- ③ 旧約聖書の根幹をなす「敵を愛し、迫害するもののために祈りなさい」という教えを受け継ぎ、敵をも赦す普遍的な愛を説いた。
- ④ 神が与えてくれた悔い改めの機会として、安息日を忠実に守り、すべての労働を避けなければならないと説いた。

正解は①

- ①いわゆる黄金率についての記述。②イエスは、律法を形式的に遵守する律法主義を批判した。イエスによると、律法の精神は無差別で無償の愛であり、これを忘れて形式的遵守に傾くのは本末転倒であるとされる。
- ③「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」はイエスの言葉。
- ④神に感謝を捧げるための安息日は十戒の一つであり、イエスはこれらの律法を否定するわけではないが、安息日を守って人の命を犠牲にするようなことがあっては、神の愛という律法の精神に反するものだというのがイエスの立場である。

2014 キリスト教における欲望

キリスト教における人間の欲望についての考え方である。その正誤の組合せとして正しいものを下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- ア パウロは、分かっているながら欲望のために悪を行ってしまう人間のあり方に悩み、そこからの救済は福音への信仰によるほかにないと考えた。
- イ アウグスティヌスは、生まれつき人間にそなわっている自由意志により、欲望から悪を犯してしまう傾向を克服できると考えた。
- ウ イエスは、欲望を抱いて女を見る者は、心のなかで姦淫していると述べ、情欲を克服した善き人だけが、他者を裁くことができると主張した。

- ① ア 正 イ 正 ウ 正
- ② ア 正 イ 正 ウ 誤
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 正
- ④ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑥ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑦ ア 誤 イ 誤 ウ 正
- ⑧ ア 誤 イ 誤 ウ 誤

正解→

正解は 4。ア 正しい。ユダヤ教パリサイ派からの回心者であるパウロは、人間は善を願いつつも 悪をなしてしまう存在であるとして、救済のためにはイエスによってもたらされた福音を信仰するしかないと言った。

イ 誤り。教父アウグスティヌスは、人間は自由意志によって悪へと向かうことはあっても自由意志によって善をなすことはできないとして、ただ神の恩寵によってのみ救われると言った。

ウ 誤り。イエスは、誰もが罪人であるから、他者を裁くのではなく、赦し、助け合うことが大切であると説いた。